



〇収束と終息

ニュースばかり見えています。見ていると、報道や専門家や政治家たちが、人を納得させたり動かしたりするときの言葉の使い方が、どんなに大切か思い知ります。本気で人をはげます言葉には救われるし、厳しさの真ん中にいる人たちが絞り出すように吐く言葉に胸がしめつけられます。

そして、商売柄かやっぱり、私は使われている言葉が気になってしかたありません。聞きなれないカタカナやおそらく生まれたばかりのことばやら。気の利いた言葉遊びにも心が和みます（「しばらくは離れて暮らす コ と ロ と ナ つぎ逢ふ時は君といふ字に」という短歌なんかとか）とくに気になることばのひとつが「しゅうそく」です。「終息」だろうと思われるところに「収束」という漢字の表記がテロップで流れてくることがあまりに多かったからです。

「終息」。よくないことがすっかりおわること。

「収束」。歩み寄ったりして、ある状態にまとまること。無くなることではありません。

おそらくはじめのうち多くは「終息」と言いたかったのでしょう。〇になるのを願ったのでしょう。

「収束」という語を使うのは、例えば、自粛して数が減り、再開してまた増え、の繰り返しを経て、あるいは治療法やワクチンの開発・使用や抗体によって、〇ではないがある一定の数字あるいは状況にまとまっていく……などという場合で、実際その意味で使っている人もいると思われます。

でも「しゅうそく」と入力して変換すると「収束」になったりして、それでも意味はつながるわけです。しばらくはごちゃごちゃに使われていたのだけれど、テレビのテロップでもどんどん「収束」の表記が多くなって、明らかに「終息」の意味で使っているのも、どんどん「収束」という表記が増えていったのです。まさに「収束」に収束したのです。

そしておもしろいことに、時間がたつにつれ、意識的に「収束」の方を使うようになってきたように思われます。公文書や新聞紙面も「収束」が大半です。どうやらこれは終息とはちがう道を見ている（〇は目指せない）のではないということなのでしょう。

〇にはならないことを前提としてリスクをコントロールしながら共存の道をさぐっていく。何かと右往左往してしまっていた私達もそちらに収束していくのかもしれませんが。だとすればつぎは収束後、新型コロナウイルスとともに生きるなかで、人に対するどんなあり方が、どんな言葉が求められるのか本気でかんがえていかなければならないのでしょうか。

国語科 ちだたくや